

受託研究／広島県教育委員会学びの革新推進課が推進した3か年の教育プロジェクト
「広島創生イノベーションスクール」サマースクール



01 平和プロジェクト学習のプログラム開発

日時／2018年7月24日-26日 場所／JMSアステールプラザ(中心会場)

1. Introduction — 実施の経緯

広島県教育委員会からの受託研究

広島県内の約90名の高校生が、海外4ヶ国の生徒達とともに、「2030年のよりよい未来」の実現のために様々な社会的な提言・発信に取り組みました。集大成となる「グローバルスクール@広島」は、「サマースクール」「広島フォーラム」「ホームステイ」の3つによって構成されています。この度、EVRIは受託研究として、導入となる「サマースクール」プログラムの開発支援に携わりました。

2. Aims & Objectives — 実施のねらい

各国の高校生が「平和」の定義を追究する

事前課題から、参加する高校生はそれぞれ6つのカテゴリーの平和観をもっていることが分かりました。私たちは、高校生の持っている多彩な「平和観」を、ヒロシマでの経験を通じて揺さぶりたいと考え、各国の高校生が、ともに「平和」の定義を追究することをねらいとしました。

3. Assignment — 任務

異質な他者との対話を通して”平和観”の再構築をうながす「国際協働型プロジェクト」学習を開発

▶ 中心課題

「第二次世界大戦における日本での核兵器使用が
私たちに問いかけていることは何か」

What is the lasting impact of the use of nuclear weapons in Japan during WWII?

▶ 中心課題に応えるためのプロジェクト

「広島平和記念博物館のラスト10フィートをデザインしよう」

Design the last 10 feet of the HPMM!

ラスト10フィートとは



広島平和記念資料館の展示の最後の10フィート(約3.5m)分空けられた空間のこと。今回は、この空間に飾る作品の制作をもって、活動の完成としました。

7月24日 / 学習



広島イメージについて共有



オバマ大統領の広島訪問のビデオを視聴・意見表明



中心課題・プロジェクトの提起



▶ 補助発問1

問い：米国が日本で核兵器を使用するに至った経緯は何だろう。
活動：核兵器使用に至る一連の出来事を、各自でフローチャートに表そう。



広島平和記念資料館を観覧・観覧者に聞き取り調査



▶ 補助発問2

問い：原爆は広島にどんな影響を与えたか、市民はそれにどのように対応したか。
活動：1945年8月6日に広島で生活していた人の日記(journal)を書こう。



観覧者が資料館の展示に抱いた印象や不満をチャートに表記



資料館からのメッセージとギャップの発見・発表

7月25日 / 制作



▶ 補助発問3

問い：原爆死没者慰霊碑の碑文「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」の主語とは何か(weとは誰か)。
活動：碑文の主語に関して自分の考えをつくり、みんなの前で意見表明をしよう。



各グループでデザイン案を検討



ダイソーでラスト10フィートを作るのに必要な物品を購入



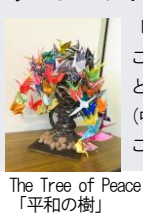
展示品・デザインの解説パネル・デザインの提案書の作成

7月26日 / 発表



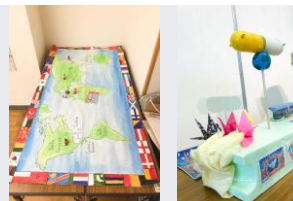
グループ単位で巡回して、展示品のプレゼンテーションを聴く

ラスト10フィート展示の完成作品と解説文(一例)

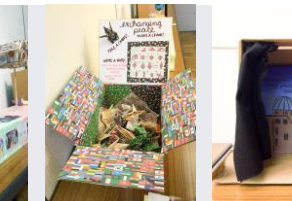


The Tree of Peace 「平和の樹」

「『樹』とは、過去、現在、そして育てられ成長していく柳のこと。この平和の樹は、広島の人々を多数殺害した出来事を思い起こさせるとともに、人間の結びつきを通じた平和な未来への希望を表している。(中略)平和と平穏のために励む人々の努力によって、この平和の樹は、これからも美しい花を咲かせ続けることだろう。」



その他の完成作品



3日間の詳細なプログラム・その他の完成作品については、EVRIホームページよりご覧いただけます▶



4. Conclusion — 取組の意義・意味

- 01 「広島平和記念資料館のラスト10フィートをデザインする」ことで、自分たちの平和観を根底から問い直し、再構築し、それを同僚や専門家に提言する「**真正な学び**」の在り方を提案できた
- 02 異質な他者と対話し、多様な視点と出会う「空間」が、**グローバル・シティズンシップ**の形成に一定の効果を発揮しうる**ことが確かめられた**
- 03 教育委員会と大学という2つの「専門機関の協働」を通して、**Innovative Educational Design**を切り拓いていく**可能性と方策が見えてきた**